

市民意見公募手続の実施結果

事案番号 12504

所管課名	開発建築部 市街地整備課
------	--------------

実施事案名	第4期松山市中心市街地活性化基本計画(案)
-------	-----------------------

意見募集期間	令和 7年9月1日(月)～令和 7年 9月 30日(火)	30 日間
--------	------------------------------	-------

意見数(うち意見の反映件数)	28件 (0件)
----------------	----------

★提出のあった意見の概要及びそれに対する市の考え方等

意見の概要	意見に対する市の考え方
◆類似意見の集約 ■ 有 □ 無 ※ 集約意見数 (15) 件 計画(案)に掲げられた3つの目標の達成には、分煙環境の整備と喫煙者へのマナー啓発が不可欠であるため、公衆喫煙所の設置や禁煙区域の明確化で、望まない受動喫煙の防止を図ってほしい。	◆政策等の案への反映結果 □ 反映 ■反映なし 市駅前広場では、令和3年11月に実施した社会実験の利用者アンケートの結果で、喫煙所の整備を希望する意見が少なかったことや周辺環境への影響により地元商店街の理解を得られないため、現時点では喫煙所の整備は考えていません。また、JR松山駅周辺では、本市が計画するアーナや民間が開発を行う施設など、それぞれの管理者が、今後、事業を進めていく中で、分煙環境を検討することになります。禁煙区域については、JR松山駅前や市駅前、大街道や道後温泉本館周辺などで「歩きたばこ等禁止区域」を定め、市ホームページや標識の設置などで、禁止区域の周知と喫煙者へのマナー啓発に努めています。いただいた御意見は、市政への提言として関係各課で検討します。
◆類似意見の集約 □ 有 ■ 無 ※ 集約意見数 (0) 件 松山市駅や歩きたばこ禁止区域で、分煙環境整備の必要性や公衆喫煙所が必要かどうかの賛否を確認してもらいたいので、市民アンケートを実施してほしい。	◆政策等の案への反映結果 □ 反映 ■反映なし 第4期松山市中心市街地活性化基本計画(案)以外の内容のため、関係各課で検討します。
◆類似意見の集約 ■ 有 □ 無 ※ 集約意見数 (4) 件 「行きたい・住みたいまち」の実現するためには、誰もが安心して利用できる清潔な公衆トイレが不可欠です。公衆トイレの整備を具体的な施策として計画に明記し、観光客が多く集まる場所や主要な歩行者空間に、デザイン性にも配慮した多機能トイレを設置してほしい。	◆政策等の案への反映結果 □ 反映 ■反映なし 道後温泉周辺など観光客が多く集まる場所や、銀天街やロープウェー街など主要な歩行者空間の沿道施設には、誰もが利用できるトイレが整備されています。今後、松山市駅前では、高齢者や小さなお子様連れの方々を含む、様々な方が利用できるバリアフリートイレを備えた待合所を整備する予定です。いただいた御意見は、市政への提言として関係各課で検討します。

<p>◆類似意見の集約 ■ 有 □ 無 ※ 集約意見数 (3) 件</p> <p>「居心地が良い空間づくり」には、街の清潔さが欠かせません。分別可能なゴミ箱の設置を計画に明記し、特に商店街や駅周辺など人通りの多いエリアに設置することで、ポイ捨てを防ぎ、快適な歩行空間の維持につなげてほしい。</p>	<p>◆政策等の案への反映結果 □ 反映 ■反映なし</p> <p>現時点ではゴミ箱の整備は考えていませんが、イベント等では、ゴミ箱などを設置しているほか、商店街では定期的にクリーンアップ活動を実施するなど、地域で快適な歩行環境の維持に努めています。</p>
<p>◆類似意見の集約 □ 有 ■ 無 ※ 集約意見数 (0) 件</p> <p>広場、商店街の軒先、主要な交差点付近などに、ベンチや日除けのある休憩スペースを複数設置してほしい。</p>	<p>◆政策等の案への反映結果 □ 反映 ■反映なし</p> <p>ベンチなどの休憩スペースについては、市政への提言として関係各課で検討します。</p>
<p>◆類似意見の集約 □ 有 ■ 無 ※ 集約意見数 (0) 件</p> <p>中央商店街や松山市駅周辺の空き店舗対策と創業支援の強化として、若者や地域事業者がチャレンジしやすい環境づくりを進めてほしい。</p>	<p>◆政策等の案への反映結果 □ 反映 ■反映なし</p> <p>若者や地域事業者がチャレンジしやすい環境づくりについては、市政への提言として関係各課で検討します。</p>
<p>◆類似意見の集約 □ 有 ■ 無 ※ 集約意見数 (0) 件</p> <p>観光地(道後地区など)での案内表示の多言語化とデジタル化により、インバウンド対応を強化し、観光客の利便性の向上と回遊性促進を図ってほしい。</p>	<p>◆政策等の案への反映結果 □ 反映 ■反映なし</p> <p>「道後温泉地区インバウンド推進事業」では、案内・誘導用サインの多言語対応や道後温泉公式サイトの多言語ページ、パンフレットや動画の多言語コンテンツの充実・更新などで、インバウンド対応を推進しています。なお、本事業は、計画(案)7[2](4)に記載しています。</p>
<p>◆類似意見の集約 □ 有 ■ 無 ※ 集約意見数 (0) 件</p> <p>松山駅周辺地区での街なか居住支援と空き家活用の推進で、若年層や子育て世代が中心市街地に住みやすくなるよう、住宅供給と支援制度の充実をしてほしい。</p>	<p>◆政策等の案への反映結果 □ 反映 ■反映なし</p> <p>「松山駅周辺地区土地区画整理事業・松山駅周辺まちづくり事業」「移住定住促進事業」で、魅力ある都心居住環境の創出を図ります。なお、これらの事業は、計画(案)62や6[2](3)などに記載しています。</p>
<p>◆類似意見の集約 □ 有 ■ 無 ※ 集約意見数 (0) 件</p> <p>歩道のバリアフリー化と安全性の向上で、高齢者や子供連れでも安心して歩ける空間づくりを進めてほしい。</p>	<p>◆政策等の案への反映結果 □ 反映 ■反映なし</p> <p>「市駅前広場整備事業」「中之川通線整備事業」などで、歩道のバリアフリー化を推進します。なお、これらの事業は、計画(案)42②や4[2](3)などに記載しています。</p>

★政策等の案の公表後、実施機関が自らの判断で修正した内容

修正内容							修正理由				
修正前			修正後								
【P91】「3.中心市街地活性化の目標」の[3]目標指標の設定の考え方 第4期計画策定に当たり、第3期計画で目標達成できなかった①「中央商店街の歩行者通行量」及び②「観光施設利用者数」については、引き続き目標指標に設定する。「居住人口の社会増減数」についても目標を達成できないが、本市の中心市街地の人口動態をより明確にするため③「市全体に占める中心市街地の人口割合」に変更する。			⇒ 第4期計画策定に当たり、第3期計画で目標達成できなかった②「観光施設利用者数」については、引き続き目標指標に設定する。①「中央商店街の歩行者通行量」は、商店街の魅力や集客力をより正確に把握するため「中央商店街の空き店舗率」に変更する。さらに、「居住人口の社会増減数」は、目標を達成できないが、本市の中心市街地の人口動態をより明確にするため③「市全体に占める中心市街地の人口割合」に変更する。							基本方針の「行きたくなる店舗づくり」に対する目標指標は、「中央商店街の歩行者通行量」より「中央商店街の空き店舗率」の方が、商店街の魅力や集客力を正確に把握できるため修正した。	
【P91】「3.中心市街地活性化の目標」の[3]目標指標の設定の考え方										目標指標、推計値や目標値などを見直したため修正した。	
中心市街地活性化の基本方針	目標	目標指標	基準値(令和6年)	推計値(令和12年)	目標値(令和12年)	中心市街地活性化の基本方針	目標	目標指標	基準値(令和6年)	推計値(令和12年)	目標値(令和12年)
行きたくなる店舗づくりと観光コンテンツの充実等で、モノ・コトを集め、便利でにぎわうまちにする	目標1 様々な人々を惹きつける商業と観光コンテンツの充実	①中央商店街の歩行者通行量 ②観光施設利用者数	36.7千人 1,713千人	47.9千人 1,885千人	51.0千人 2,023千人	行きたくなる店舗づくりと観光コンテンツの充実等で、モノ・コトを集め、便利でにぎわうまちにする	目標1 様々な人々を惹きつける商業と観光コンテンツの充実によるにぎわいの創出	①中央商店街の空き店舗率 ②観光施設利用者数	21.0% 1,713千人	22.9% 1,884千人	16.7% 1,975千人
居心地が良い空間づくりと快適で豊かな居住環境の形成で、住みたくなるヒトを増やす	目標2 コンパクトシティの推進で豊かな生活ができる居住環境の形成	③市全体に占める中心市街地の人口割合	3.63%	3.65%	3.88%	居心地が良い空間づくりと快適で豊かな居住環境の形成で、住みたくなるヒトを増やす	目標2 コンパクトシティの推進で豊かな生活ができる居住環境の形成	③市全体に占める中心市街地の人口割合	3.63%	3.63%	3.86%
安全な歩行空間の創出と公共交通の利便性向上で、歩いて暮らせるまちづくりを進める	目標3 誰もが安全で快適に移動しやすい環境の創出	①1日当たりの公共交通利用者数	40.0千人	40.5千人	43.5千人	安全な歩行空間の創出と公共交通の利便性向上で、歩いて暮らせるまちづくりを進める	目標3 誰もが安全で快適に移動しやすい環境の創出	①1日当たりの公共交通利用者数	42.9千人	43.0千人	46.0千人
【P91】「3.中心市街地活性化の目標」の[3]目標指標の設定の考え方 中心市街地活性化の目標 「様々な人々を惹きつける商業と観光コンテンツの充実」			⇒ 「様々な人々を惹きつける商業と観光コンテンツの充実によるにぎわいの創出」に変更する。							実施による効果を追加したため修正した。	

[P92]「3.中心市街地活性化の目標」の[3]目標指標の設定の考え方

①中央商店街の歩行者通行量

(1)目標数値の設定

目標1 様々な人々を惹きつける商業と観光コンテンツの充実

① 中央商店街の歩行者通行量

目標指標	基準値 (令和6年)	推計値 (令和12年)	事業効果による 増加数 (令和12年)	今期目標値 (令和12年)
中央商店街の 歩行者通行量	36.7千人	47.9千人	3.1千人	51.0千人

【目標指標の計測方法】

調査方法:中央商店街計3か所(大街道一番町口、銀天街千舟口、銀天街四丁目西口)の歩行者の通行量を平日と休日(各1日)の4時間(12:00~16:00)測定

調査主体:松山市、株式会社まちづくり松山、松山商工会議所

算出方法:年間(1月~12月)の3地点の平日・休日の合計を1月分に平均した数値。

松山中央商店街の通行量調査により把握する。

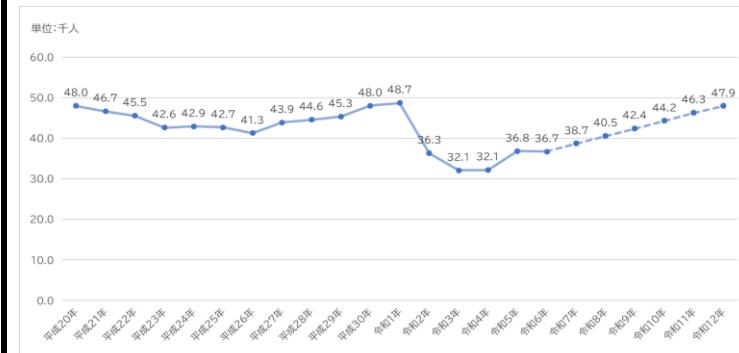
【目標値の考え方】

①推計値(R12)	47.9千人
②事業効果による増加数(R12):ア+イ	3.1千人
ア 市駅前広場整備事業	1.7千人
イ 商店街空洞化対策事業/あきんど事業	1.4千人
目標値(R12):①+②	51.0千人

○推計値

中央商店街の歩行者数は新型コロナウイルス感染症拡大により令和2年に大きく減少しているが、令和4年以降は回復傾向にあり、今後、徐々に増加していくことが予測されることから、新型コロナウイルス感染症拡大前の実績を基に令和7年以降のトレンド推計を行い、令和12年の推計値を算出する。この結果により、令和12年の歩行者通行量の推計値は 47.9千人。

■中央商店街の歩行者通行量の推計



出典:中央商店街通行量調査を基に推計

(1)目標数値の設定

目標1 様々な人々を惹きつける商業と観光コンテンツの充実によるぎわいの創出

① 中央商店街の空き店舗率

目標指標	基準値 (令和6年)	推計値 (令和12年)	事業効果による 改善率 (令和12年)	今期目標値 (令和12年)
中央商店街の 空き店舗率	21.0%	22.9%	6.2%	16.7%

【目標指標の計測方法】

調査方法:中央商店街(大街道、銀天街、まつちカタウン)の総店舗数、空き店舗数から、空き店舗率を集計。

調査主体:松山市、まちづくり松山

算出方法:松山中央商店街の店舗状況変化調査及び中央商店街の出退店数を基に、年間の総店舗数及び空き店舗数の平均値から空き店舗率を算出。

【目標値の考え方】

①推計値(令和12年)	22.9%
②事業効果(令和12年):ア+イ+ウ+エ	6.2%
ア 商店街空き店舗出店促進事業・商店街空き店舗利子補給事業	
イ チャレンジショップ等支援事業	
ウ 商店街等連携・賑わい創出支援事業(松山市商業振興対策事業)	
エ 中心市街地回遊性向上事業	
目標値(令和12年):①-②	16.7%



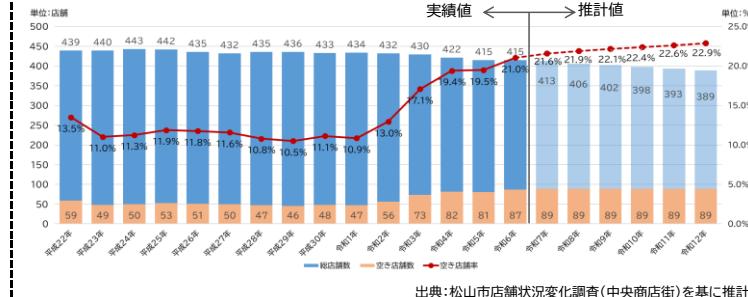
○推計値

商店街の空き店舗率は、令和2年以降、中央商店街の総店舗数が減少する一方で空き店舗数が増加したことから、増加傾向にある。

この傾向から令和12年の空き店舗率の推計値は 22.9%(総店舗数:389店舗・空き店舗数:89店舗)

なお、事業効果の二重計上は見込みず、中心市街地活性化に取り組まない場合、令和7年以降空き店舗数は変わらないものと仮定する。

■中央商店街の空き店舗率の推計



出典:松山市店舗状況変化調査(中央商店街)を基に推計

基本方針の「行きたくなる店舗づくり」に対する目標指標は、「中央商店街の歩行者通行量」より「中央商店街の空き店舗率」の方が、商店街の魅力や集客力を正確に把握できることから修正した。

[P96]「3.中心市街地活性化の目標」の[3]目標指標の設定の考え方

②観光施設利用者数

目標1 様々な人々を惹きつける商業と観光コンテンツの充実

① 観光施設利用者数

目標指標	基準値 (令和 6 年)	推計値 (令和 12 年)	事業効果による 増加数 (令和 12 年)	今期目標値 (令和 12 年)
観光施設利用者数	1,713 千人	1,885 千人	138 千人	2,023 千人

【目標指標の計測方法】

調査方法: 計画区域内にある市有観光施設の年間利用者数を集計

調査主体: 松山市

調査対象: 松山城天守閣、道後温泉(本館・椿の湯・別館 飛鳥乃湯泉)、子規記念博物館、坂の上の雲ミュージアム、二之丸史跡庭園

算出方法: 年間(1月~12月)の利用者の合計

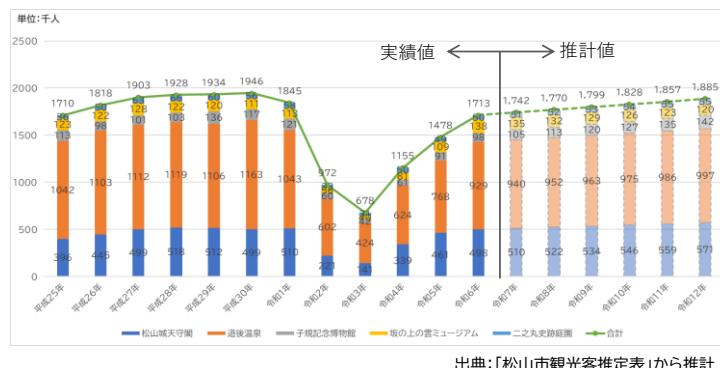
【目標値の考え方】

①推計値(令和 12 年)	1,885 千人
②事業効果による増加数(令和 12 年): ア+イ+ウ+エ	138 千人
ア 濑戸内・松山観光ビジネス戦略事業	128 千人
イ クルーズ船誘致・受入推進事業	10 千人
目標値(令和 12 年): ①+②	2,023 千人

○推計値

観光施設利用者数は新型コロナウイルス感染症拡大により令和2年に大きく減少しているが、令和4年以降は回復傾向にあり、今後、徐々に増加していくことが予測される。このことから、新型コロナウイルス感染症拡大前及び道後温泉改修期間前の実績を基に令和7年以降のトレンド推計を行い、令和12年の推計値を算出する。この結果により、令和12年の観光施設利用者数の推計値は **1,885 千人**。

■観光施設利用者数の推計



②観光施設利用者数

目標指標	基準値 (令和 6 年)	推計値 (令和 12 年)	事業効果による 増加数 (令和 12 年)	今期目標値 (令和 12 年)
観光施設利用者数	1,713 千人	1,884 千人	91 千人	1,975 千人

推計値算出の考え方を見直したため修正した。

【目標指標の計測方法】

調査方法: 計画区域内にある市有観光施設の年間利用者数を集計

調査主体: 松山市

調査対象: 松山城天守閣、道後温泉(本館・椿の湯・別館 飛鳥乃湯泉)、子規記念博物館、坂の上の雲ミュージアム、二之丸史跡庭園

算出方法: 年間(1月~12月)の利用者の合計

【目標値の考え方】

①推計値(令和 12 年)	1,884 千人
②事業効果(令和 12 年): ア+イ+ウ+エ	91 千人
ア 濑戸内・松山観光ビジネス戦略事業	36 千人
イ 國際観光客誘致促進事業	19 千人
ウ 道後温泉活性化事業	25 千人
エ クルーズ船誘致・受入推進事業	11 千人
目標値(令和 12 年): ①+②	1,975 千人

○推計値

本市の観光施設利用者数は、令和2年以降、新型コロナウイルスの感染対策や物価高騰等の影響により減少したが、令和4年以降は感染対策の緩和や円安によるインバウンド需要の増加等により増加傾向にある。

令和6年は、道後温泉本館の全館営業再開、松山空港発着の国際定期路線の運航再開や増便により市内の主な観光施設の入込客数※は 300 万人を超えていて、令和7年は、大阪・関西万博開催による波及効果や韓国釜山便の増便等により更なる増加が見込まれる。一方で、為替相場変動に伴うインバウンド客の動向等の不確実な要因があるため、観光客数の増加がいつまで続くかは不透明である。

そのため、令和12年の推計値については、令和7年の推計値を算出し、同数値を令和12年の推計値とする。なお、事業効果の二重計上は見込まないものとする。

※観光施設の入込客数: 道後温泉(本館・椿の湯・別館 飛鳥乃湯泉)入浴客数、松山城山口一ツウェイ・リフト乗客数、松山城天守入場者数、坂の上の雲ミュージアム入館者数、子規記念博物館入館者数、二之丸史跡庭園入場者数

■観光施設利用者数の推計



[P102]「3.中心市街地活性化の目標」の[3]目標指標の設定の考え方

④1日当たりの公共交通利用者数

目標3 誰もが安全で快適に移動しやすい環境の創出

①1日当たりの公共交通利用者数

目標指標	基準値 (令和6年)	推計値 (令和12年)	事業効果による 増加数 (令和12年)	今期目標値 (令和12年)
1日当たりの公共交通 利用者数	40.0千人	40.5千人	3.0千人	43.5千人

【目標指標の計測方法】

調査方法:JR(松山駅)及び郊外電車(松山市駅)、市内電車(市駅前、松山駅前)の1日当たりの乗降数を把握する。

調査年月:毎年5月

調査主体:松山市

調査対象:JR(松山駅)、郊外電車(松山市駅)、市内電車(市駅前、松山駅前)

算出方法:JR(松山駅)及び郊外電車(松山市駅)、市内電車(市駅前、松山駅前)の1日当たりの乗降客数の合計

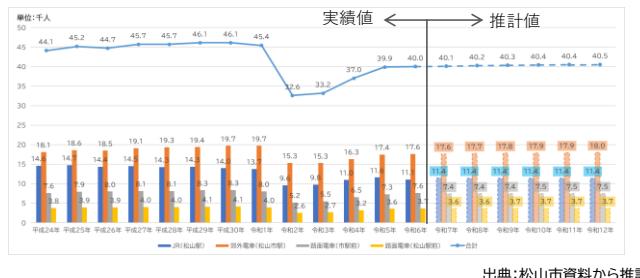
【目標値の考え方】

①推計値(令和12年)	40.5千人
②事業効果による増加数(令和12年):ア+イ	3.0千人
ア 市駅前広場整備事業	1.2千人
イ 松山駅周辺地区画整理事業・松山駅周辺まちづくり事業	1.8千人
目標値(令和12年):①+②	43.5千人

○推計値

1日当たりの公共交通利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年に大きく減少しているが、令和3年以降、年々増加している。1日当たり公共交通利用者数は今後も一定の増加が見込まれることから、これまでの実績を基に令和7年以降のトレンドを推計すると、令和12年の1日当たり公共交通利用者数の推計値は**40.5千人**。

■JR(松山駅)及び郊外電車(松山市駅)、市内電車(市駅前、松山駅前)の1日当たり公共交通利用者数



目標3 誰もが安全で快適に移動しやすい環境の創出

①1日当たりの公共交通利用者数

目標指標	基準値 (令和6年)	推計値 (令和12年)	事業効果による 増加数 (令和12年)	今期目標値 (令和12年)
1日当たりの公共交通 利用者数	42.9千人	43.0千人	3.0千人	46.0千人

【目標指標の計測方法】

調査方法:JR(松山駅)及び郊外電車(松山市駅)、路面電車(市駅前、松山駅前、道後温泉)の1日当たりの乗降数を把握する。

調査年月:毎年5月

調査主体:松山市

調査対象:JR(松山駅)、郊外電車(松山市駅)、路面電車(市駅前、松山駅前、道後温泉)

算出方法:JR(松山駅)及び郊外電車(松山市駅)、路面電車(市駅前、松山駅前、道後温泉)の1日当たりの乗降客数の合計

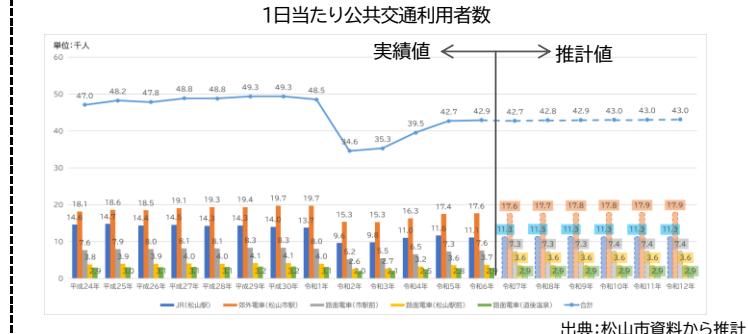
【目標値の考え方】

①推計値(令和12年)	43.0千人
②事業効果(令和12年):ア+イ	3.0千人
ア 市駅前広場整備事業	1.2千人
イ 松山駅周辺地区画整理事業・松山駅周辺まちづくり事業	1.8千人
目標値(令和12年):①+②	46.0千人

○推計値

1日当たりの公共交通利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年に大きく減少しているが、令和3年以降、年々増加している。1日当たり公共交通利用者数は今後も一定の増加が見込まれることから、これまでの実績を基に令和7年以降のトレンドを推計すると、令和12年の1日当たり公共交通利用者数の推計値は**43.0千人**。

■JR(松山駅)及び郊外電車(松山市駅)、路面電車(市駅前、松山駅前、道後温泉)の1日当たり公共交通利用者数



道後温泉駅の乗降客数を追加したため修正した。

※具体的な事業については、令和8年度当初予算成立後追記します。